



兄宇迦斯のたくらみ

危うく難を逃れた神倭伊波礼毘古命に天の神さまは、「行く先にはまだまだ荒々しい神々がいます。八咫鳥をつかわすのでそのあとをついておいきなさい。」と申されました。命の一行は八咫鳥に導かれて無事進むことが出来ました。

大和(奈良)の宇陀の地まで来ると、そこには兄宇迦斯と弟宇迦斯という兄弟が住んでいました。一行は八咫鳥を使いに出し、「今、天の神の御子がこの地においでになっています。お仕える気はないか。」と彼らにたずねました。

兄宇迦斯は矢を放って八咫鳥を追い返し、命を討とうと戦いの準備を始めました。しかし、うまく兵が集まりません。そこで、「お仕えます。」と偽り、仕掛を設けた御殿を造り、命をそこに誘い入れようとなりました。

兄のたくらみを知った弟宇迦斯は、命のもとに参りうやうやしくお辞儀をして申し上げます。

「兄が御子をだまし討ちにしようとしています。」

それを聞いた命の供の道臣命と大久米命は、兄宇迦斯を大刀と弓矢でおどし御殿に追い込みました。兄宇迦斯は自分が造った罠にかかり、押し潰されてしまいました。

